

令和7年度「川崎医療短期大学の教育・学生生活に関するアンケート
(卒業後アンケート)」調査結果

I. 調査時期、対象者、調査方法、回収結果

調査時期：令和7年8月

対象者：令和元年度看護科・医療介護福祉科卒業生、
令和6年度看護学科・医療介護福祉学科卒業生

調査方法：Google フォームを用いたオンラインアンケート調査。対象者に URL と二次元コードを印刷したはがきを送付

回収結果：

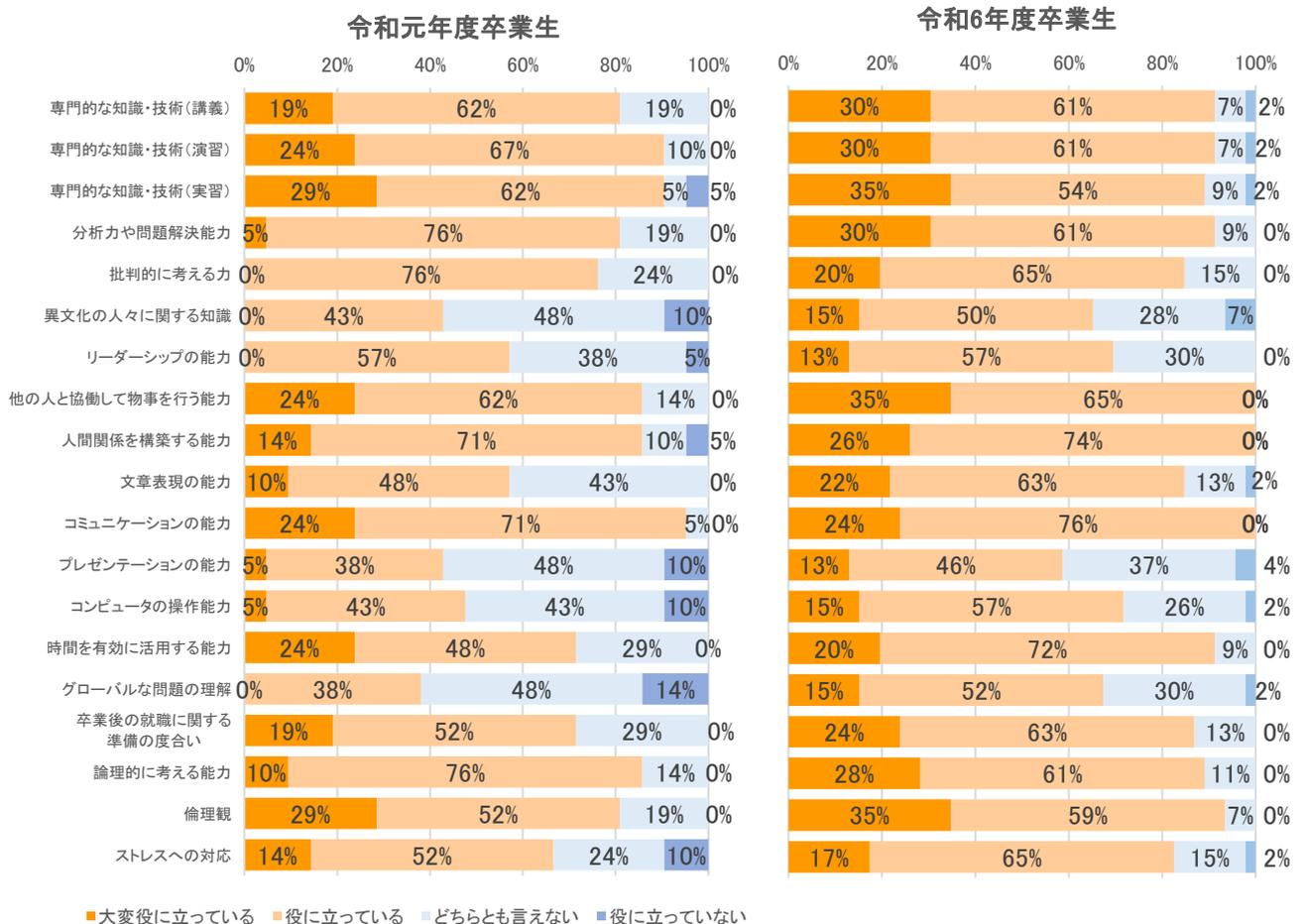
		対象者数		回収数		回収率		回収者の卒業した年の4月時点進路					
								就職		進学		その他	
総計		258		67		26%		61		5		1	
内訳	令和元年度	看護科	117	21	13	16.4%	11.1%	17	11	4	2	0	0
		医療介護福祉科	11										
	令和6年度	看護学科	117	46	35	35.4%	29.9%	44	33	1	1	1	
		医療介護福祉学科	13										11

II. 調査結果

令和元年度卒業生と令和6年度卒業生に分けて集計した。

自由記述に関しては、医療介護福祉科（医療介護福祉学科）のもののみ学科名を示す。回答の後ろの()は件数、()がないものはすべて1件

1. 在学中の教育について（次に示す能力について、在学中の教育は役に立っているか）



在学中の教育に対する意見（自由記述）

令和元年度卒業生

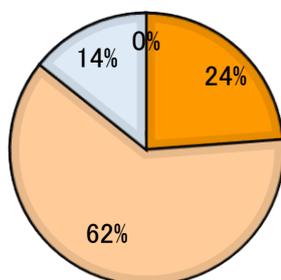
- ・ 実習での指導が役に立っている。ただ、短大の教員の方の指導で辛い思いをしたこともありました。急性期に向いてないと言われましたが、急性期で働き6年目になっています。臨床で活かせるような実技はどんどんしていくべきです。
- ・ 短大は人数も少なく科も少ないため、他の四年制大学と比較すると、他者との関わりが少ないように感じた。
- ・ 勉強できない人にもう少しサポートを厚くしてほしい。

令和6年度卒業生

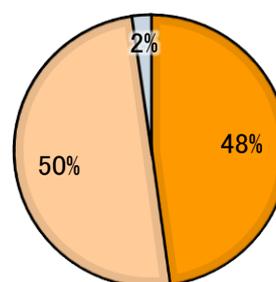
- ・ （医療介護福祉学科）実習等の技術が役立っています。

2-1. 本学での学びに対する評価（本学で学んでよかったと思うか）

令和元年度卒業生



令和6年度卒業生



■かなりそう思う ■そう思う ■どちらでもない ■そうは思わない

本学での学びに対する評価について、そのように思う理由（自由記述）

令和元年度卒業生

- ・ 手厚くサポートしてくださり感謝しています。（2）
- ・ 実習での臨床で働く看護師さんからの指導は今も役に立っているし、実際に自分が学生指導の立場となりその経験を生かしています。
- ・ 当時は早く就職したかったので、専門ではない大学で3年で学べたのはよかった。
- ・ 尊敬できる先生方（こんな看護師になりたい！と思える先生方）に出会えたから。
- ・ 川崎で働きたい場合は通りやすい。
- ・ いい人に逢えた。
- ・ （医療介護福祉科）もちろん学習内容や環境がいいことはもちろん、同じ川崎学園に入職したあとも関わりが続くから。

令和6年度卒業生

- ・ 先生方のサポートが手厚く、親身に寄り添ってくださり学習面での相談がしやすかったです。また実習環境も整っており、様々な経験ができたことも非常に良かったです。
- ・ 先生方のサポートが充実していた、相談しやすい環境だった。
- ・ 人間関係を構築することができたため、良かったと思う。
- ・ 学んだことが実践に活かされていると感じるから。

- ・ 国試勉強で躓いていた時に先生方が丁寧に指導して下さったため。(2)
- ・ 生徒一人一人に合わせた教育があったため。(2)
- ・ 短大の人はパワフルに活躍している印象がある
- ・ 多忙で厳しく感じることもあったが、実際に働き初めて適応しやすかったから。
- ・ 勉強する科目やレポートは多かったが、看護師になった時に学生で学んだことを生かせる場が多く感じたから。
- ・ 実際の現場と大学では異なるから、どちらとも言えない。
- ・ (医療介護福祉学科) サポートがしっかりしていたから
- ・ (医療介護福祉学科) 学んだことが実践に生かされていると感じるから。(3)
- ・ (医療介護福祉学科) 先生たちと楽しく知識を多く取れた。

2-2. 本学でほかに学ばなかったこと (自由記述)

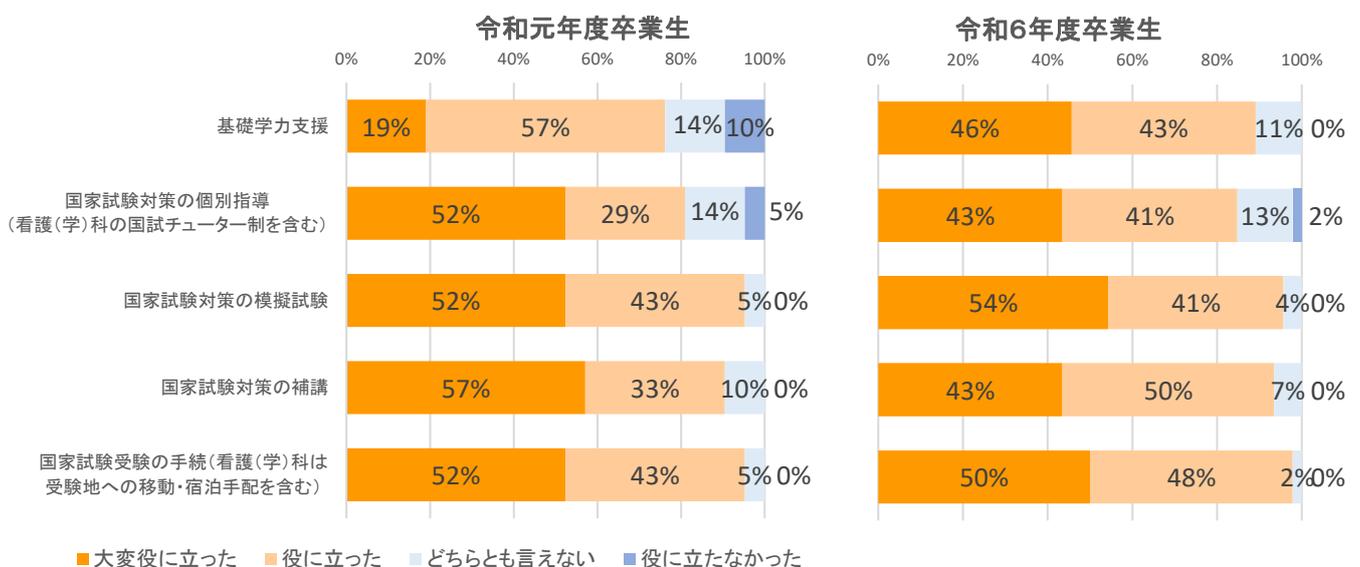
令和元年度卒業生

- ・ グローバルな知識

令和6年度卒業生

- ・ NOCNIC について。口腔、鼻腔吸引。点滴の種類。
- ・ (医療介護福祉学科) もっと介護現場の状況を知りたかった。

3. 在学中の教育支援について (次に示す教育支援は役に立ったか)



在学中の教育支援に対する意見（自由記述）

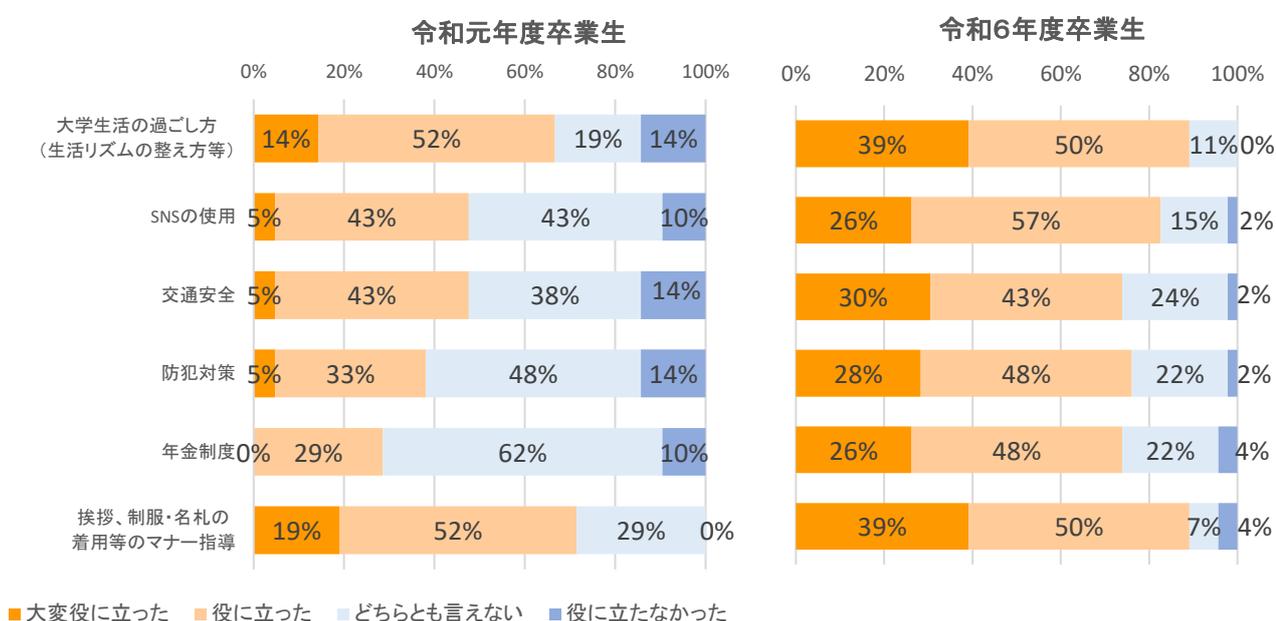
令和元年度卒業生

- ・ 一年目の時に担当？の教員の方が親身に相談に乗ってくれるということでしたが、相談に行ったけど自分が思うほど一緒には考えてくれなかったです。
- ・ 実習が厳しすぎる。

令和6年度卒業生

- ・ 国家試験のチューターは先生によって差があり、よく分からなかった。いつまでに何の範囲を終わらせるというシートは使わなかった。

4-1. 在学中の学生生活支援について（次に示す学生生活に関する指導は役に立ったか）



4-2. 在学中の学生生活に関する指導で、就職・進学（編入学）後、役に立ったこと（自由記述）

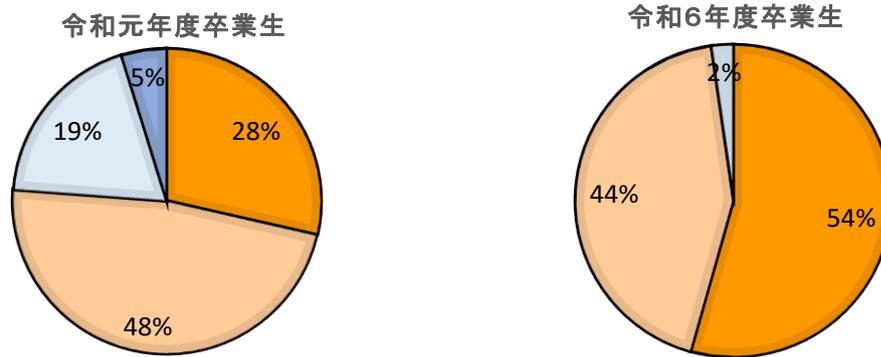
令和元年度卒業生

自由記述なし

令和6年度卒業生

- ・ 先生に相談出来ることが良かった。
- ・ 服装や髪色など見た目に関して厳しくする必要はないと思います。

5. 担任制度について（担任による支援は役に立ったか）



■ 大変役に立った ■ 役に立った ■ どちらとも言えない ■ 役に立たなかった

担任による支援に対する意見（自由記述）

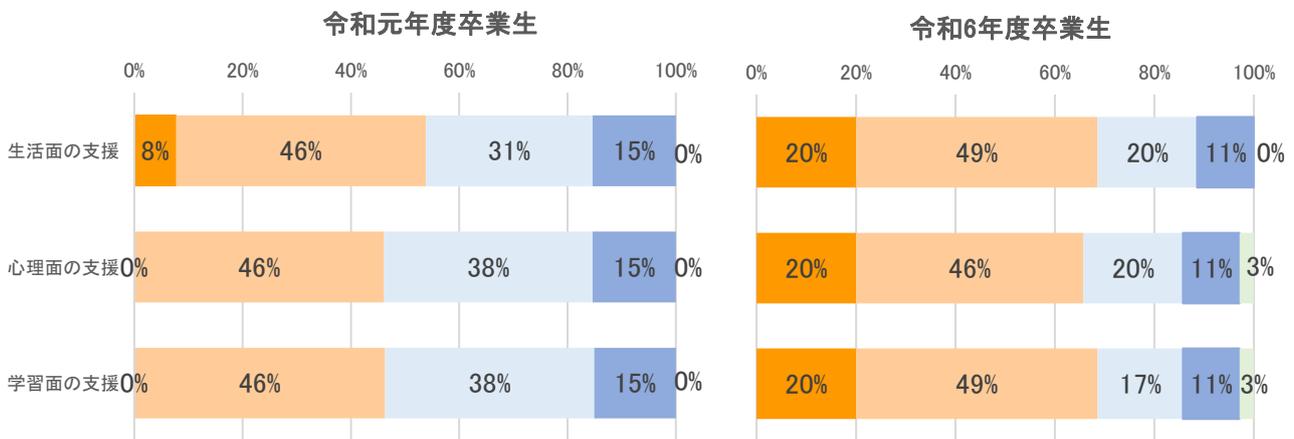
令和元年度卒業生

自由記述なし

令和6年度卒業生

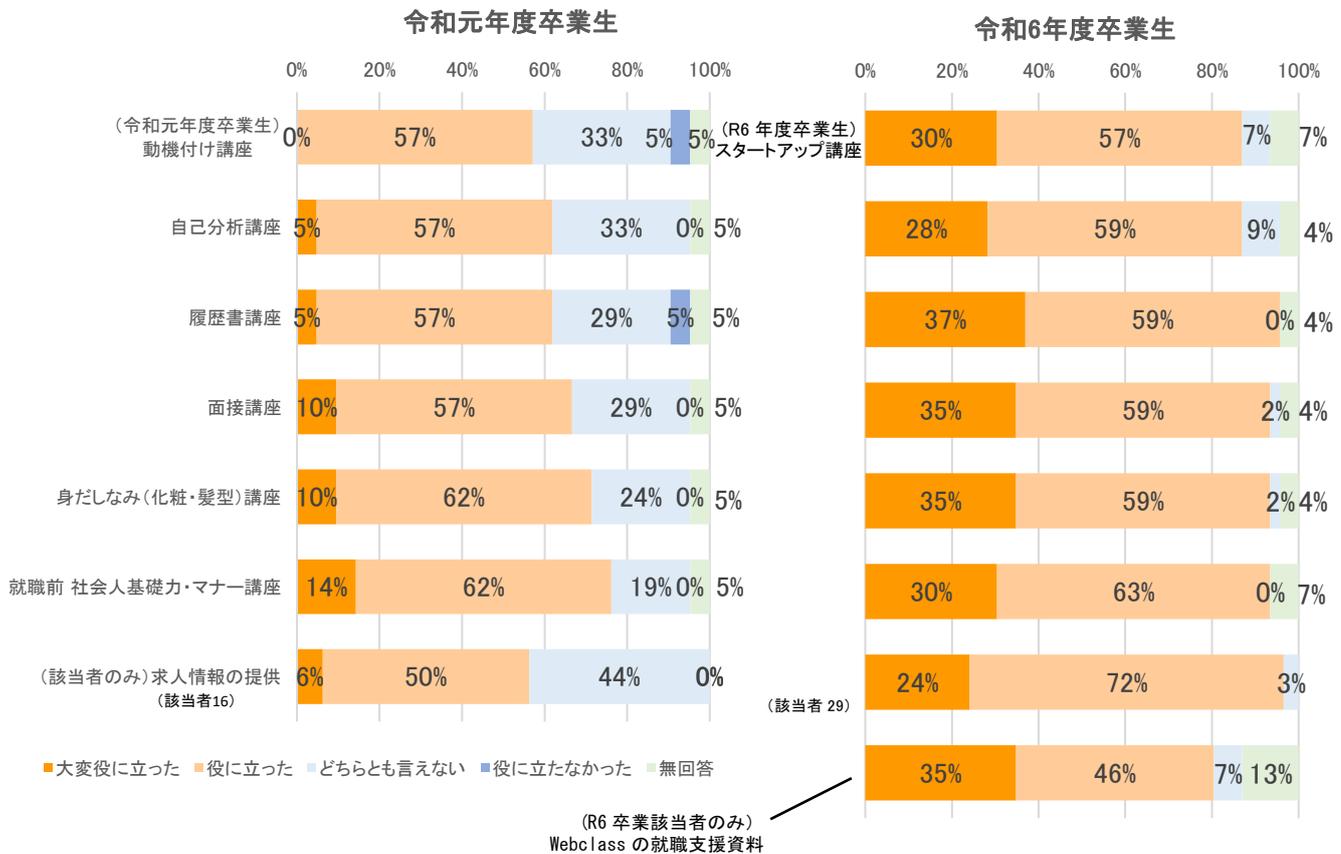
- ・（医療介護福祉学科）手厚いサポートをしていただいていたありがとうございました。

6. 1年生のアドバイザー制度（看護科・看護学科のみ）について（アドバイザーによる支援は役に立ったか）

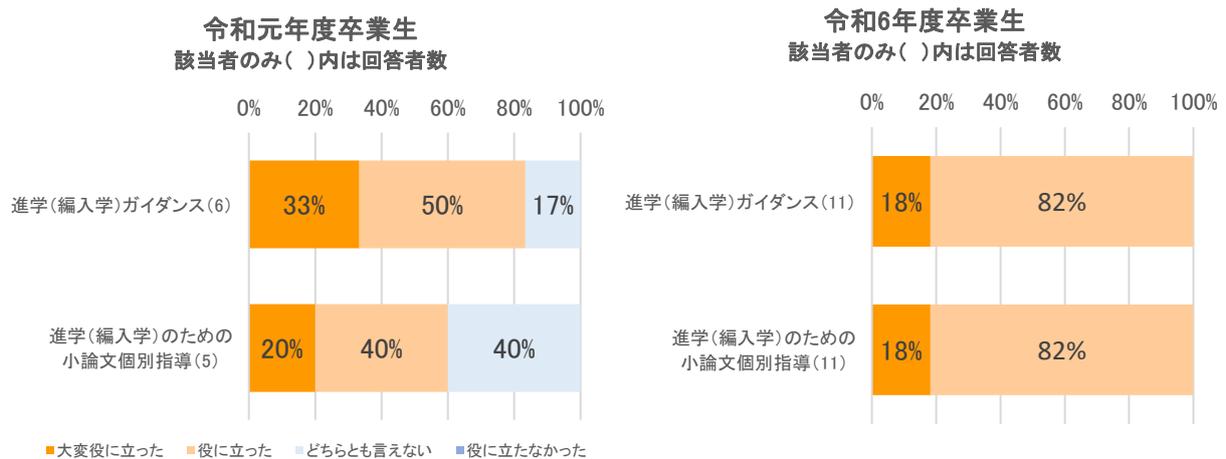


■ 大変役に立った ■ 役に立った ■ どちらとも言えない ■ 役に立たなかった ■ 無回答

7. 就職支援について（次に示す支援は役に立ったか）



8. 進学（編入学）支援について（次に示す支援は役に立ったか）



9. 就職、進学（編入学）支援で、ほかに役に立ったこと（自由記述）

令和元年度卒業生

- ・ 実際に進学した人の話が聞けて役に立った。

10. 在学中にできなかったことで、学生時代にしてみたかったこと（自由記述）

令和元年度卒業生

- ・ 1年次の学外研修がなかったので、学外研修で何かしら思い出作りはしてみたかったです。
- ・ 3年という短い間ではあるが海外留学がしてみたかった。

令和6年度卒業生

- ・ 学食のメニューを増やしてほしい。
- ・ サークル活動、学外研修
- ・ 色んなバイトをしてみたかった。放課後に私服で遊びに行く。
- ・ （医療介護福祉学科）介護施設でのバイト（実際に現場で働いてみるということ）

11. 在学中になかったことで、あればよかったと感じている支援（自由記述）

自由記述なし

まとめ

看護科（看護学科）・医療介護福祉科（医療介護福祉学科）の令和元年度卒業生と令和6年度卒業生を対象に、本学の教育並びに学生生活支援の有用性についてアンケート調査を行い、それぞれの調査項目につき卒業年度ごとに集計した。

在学中の教育・教育支援について

在学中の教育：令和元年度卒業生は、「専門的な知識・技術」について81～91%の卒業生が「(大変)役に立っている」と評価していた。「一般的な教養や教育活動全般を通して涵養される能力」では、「他者との協働」「コミュニケーション」「論理的に考える力」を86%以上の卒業生が「(大変)役に立った」と高く評価していた。一方、50%未満の項目としては「異文化の人々に関する知識」「プレゼンテーション」「コンピュータ操作」「グローバルな問題理解」については「(大変)役に立った」と答えた卒業生が38～48%と低かった。令和6年度卒業生は、89～91%の卒業生が「専門的な知識・技術」を「(大変)役に立っている」と評価していた。それ以外の能力については、令和元年度卒業生と同様に「異文化の人々に関する知識」「プレゼンテーション」「グローバルな問題理解」が59～67%と低かったが、「批判的に考える力」「コンピュータ操作」については72～85%と高く評価していた。全体的な評価で令和元年度卒業生より令和6年度卒業生の方が高い傾向にあり、「他者との協働」「人間関係の構築」「コミュニケーション」は90%以上が高く評価していた。以上のことから本学の教育改善が奏功していることがうかがえた。今後の課題として、専門教

育に加えて、幅広い視点とデジタルテクノロジーの力やプレゼンテーション技術を養い、様々な課題に挑戦する力を育むことが挙げられる。

学びに対する評価：「本学で学んでよかった」と答えた卒業生の割合は、令和元年度卒業生が86%、令和6年度卒業生が98%といずれも高い評価であった。昨年度のそれぞれ83%と94%よりやや上昇した。自由記述の意見には川崎学園内の実習環境が整っていること様々な経験ができたこと、学びが実践に活かされていることなどが挙げられていた。また教員の手厚いサポートについても記述されていた。このように評価されていることから、教育内容・教員の指導方法の向上が図られていることが推察される。

教育支援：兩年度共に、「基礎学力支援」の有用性に対する評価は高く、「国家試験対策」に関しては43%以上の卒業生が「大変役に立った」と答え、約80%以上の卒業生がその有用性を実感していた。国家資格が得られて仕事に従事できたことを非常に満足しているものと思われる。

学生生活支援（含就職・進学支援）について

在学中の学生生活支援：令和元年度卒業生では「大学生活の過ごし方」「マナー指導」を高く評価した卒業生が多かったものの、それ以外は「(大変)役に立った」と答えた卒業生の割合は半数以下にとどまった。令和6年度卒業生では「大学生活の過ごし方」「マナー指導」に加えて「SNS使用」が高く、それ以外も70%強であった。学生生活に関する指導のうち、対人援助職者としての自立につながる指導は学生も切実に受け止めたものと思われるが、「SNS」「交通安全」のように学生自身が日常生活の中で身につけていく常識的な事柄や、「年金制度」のように学生にとって切実とは言い難い内容については在学中に受けた指導やその内容を忘れていく可能性もある。

担任制度・アドバイザー制度：令和元年度卒業生は「担任制度」について76%の卒業生が評価していたが、令和6年度卒業生は、98%と高い評価であった。「看護(学)科1年生のアドバイザー制度」は令和元年度卒業生は、46～54%の卒業生が高く評価している。令和6年度卒業生は、66～69%の卒業生が高く評価しており、令和元年度卒業生においては在学中に受けた指導やその内容を忘れていく可能性がある。

就職支援：本学で開催している6つの就職活動支援講座について、令和元年度卒業生では、57～76%が、令和6年度卒業生においては、87～96%がその有用性を高く評価していた。とりわけ、「履歴書講座」「面接講座」「マナー講座」など就職活動や就職の軸となる講座への評価が非常に高かった。令和5年度から始めた「WebClassでの就職活動支援資料の提供」に対する評価も昨年度同様に高かった。

進学(編入学)支援：令和元年度卒業生では、「進学(編入学)ガイダンス」について83%と高く評価し、「小論文個別指導」は60%の卒業生が高く評価していた。令和6年度卒業生においては「進学(編入学)ガイダンス」「小論文個別指導」において100%の学生が高く評価をしていた。ただし、全学年対象に開催しているガイダンスには興味のある学生が毎年10～20人程度参加しているが、小論文指導は進学(編入学)を希望する最終学年の学生のみを対象としているため人数は限られている。回答している10人超の卒業生がすべて該当者とは考え難く、就職支援の小論文個別指導と間違えて回答した可能性がある。

以上のように、今回対象となった卒業生は、本学での学びの有用性を実感し、卒業後の

就職や進学にも満足しているものと推察される。また、「他者との協働」「人間関係の構築」「コミュニケーション」「倫理観」に対する評価が高いことから、本学の教育は医療福祉の専門職者としての能力の涵養にも役立っていることがうかがえる。上述した通り、令和元年度卒業生に比べて令和6年度卒業生の全体的な評価が高いのは、令和元年度卒業生よりも卒業後の記憶が新しいことも考えられる。昨年度から開始した1年次生対象の「リベラルアーツ教育」により、在学中の教育支援の充実として結果も現れており、今回の結果からグローバル化や社会の多様化に対応できる学生を育てる教育が今後ますます重要性となるであろう。